

大仙市立西仙北中学校 第3学年A組 道徳科学習指導案

場 所：大仙市立大曲中学校3年7組教室

指導者：教諭 山内 健

1 主題名 自他の生命の尊重（D 生命の尊さ）

2 教材名 家族の思いと意思表示カード（出典：「中学道徳3 とびだそう未来へ」教育出版）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

生命を尊ぶことは、どのような価値よりも優先されなければならない。人間の生命には生物的・身体的生命とは別に、その関係性や精神性においての社会的・文化的生命といった側面もある。それらも含め、生命はかけがえのないものであることに気付かせ、決して軽々しく扱われてはならないという態度を育てたい。生命を尊ぶために、まずは自己の生命の尊厳、尊さを深く考えさせることで自己以外の生命の尊さへの理解につなげていくことが重要であると考え、本主題を設定した。

(2) 子どもの実態

個性豊かな25名であり、生徒自身も自分たちが個性的であるという自覚が強い。事前アンケートから、ほとんどの生徒がペットや生き物を飼育した経験があり、その死に立ち会った経験をもつ。しかし、身近な人間の死と向き合った経験のある生徒は少ない。このような状況を考えると、かけがえのない生命と真剣に向き合い、議論し、考える機会は自他の生命を尊重するという態度を育む上で非常に重要であるといえる。

(3) 教材について

今年度は「ニワトリ」「死刑制度を考える」などの教材で生命の尊さについて考えてきた。これらの学習で生命の尊さについて考えた経験を本時の学習にもつなげていく。

現代社会に目を向けると、大人でも判断に迷うような事象が至る所に点在している。様々な立場に立って考えれば考えるほど判断は難しくなる。本教材にある臓器移植の問題もそうした事象の一つである。こうした現代的課題をテーマにすることにより、生徒の学びと実社会とをつなぎ、生徒が真剣に自分自身や他者と対話をするきっかけになると考える。

4 「道徳的価値を自分との関わりで捉え、様々な考えに触れて、これからの生き方について考え、深める授業づくり」の実現に向けて

(1) 道徳的価値を自分との関わりで捉えるために

- ・導入では、臓器提供意思表示カードの配付と、ドナー登録を呼びかける映像を見せ、ドナー登録によって助かる命があることに対するイメージをもたせる。
- ・終末でも臓器提供意思表示カードを用いて、どんな意思を示そうと思っているのか問いかけ、自他の命とどのように向き合っていくべきか考えさせる。

(2) 様々な考えに触れて、考えを深めるために

- ・話合いの場面では、それぞれの立場が明確になるように黒板にネームプレートを貼って視覚化する。また、全員に自分の考えを述べさせ、どの考えも尊重されるべき意見であり、大切にしようとする意識をもたせる。

5 本時の実際

(1) ねらい

主人公の葛藤する心情について考え話し合う活動を通して、自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに、他の生命を尊重する態度を育てる。

(2) 学習過程

学習活動・予想される生徒の反応	教師の主な支援
<p>1 命とはどういうものか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限りあるもの。 ・一つしかないもの。 ・受け継がれるもの。 <p>2 教材文「家族の思いと意思表示カード」を読んで、話し合う。</p> <p>○姉が「脳死の可能性が高い。」ことを聞かされ、主人公はどう思っただろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう姉は動けない？ 話せない？ ・姉は死んだのか？ <p>○父の考えと、母の考えをどう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・父は姉の意思を尊重したいのだろう。 ・母は姉の意識が戻ることを期待しているのではないか。 <p>◎あなたなら、両親にどのような意見を伝えるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姉は臓器提供の意思をもっていた。姉の意志を尊重すべきだ。 ・まだ温かい姉の体から臓器を取り出すなんてできない。とても承諾できない。 ・どちらの考えも理解でき、判断ができない。 <p>3 本時の学習を基に、考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰かの役に立てるなら、自分も臓器提供をしたい。 ・私には、臓器提供をすることはできない。他者にも求められない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドナー登録を呼びかけるCMを見せることで、臓器等の移植手術によって助かる生命があることへのイメージをもたせる。 ・臓器提供意思表示カードを配付し、範読を聞く視点をもたせるとともに課題意識をもたせる。 ・主人公の思いに寄り添えるように、脳死の定義や脳死に対する意見を紹介し、脳死を人の死と見なすべきかどうか考えさせる。 ・父親の考えに寄り添えるように、導入の映像を想起させ、臓器提供により助かる生命があることを捉えさせる。 ・母親の考えに寄り添えるように、生命の終わりを決定することの重みを実感させる。 ・ネームプレートを使い、全員に自分の考えが両親のどちらの考えに近いのかを明らかにさせる。 ・道徳的価値について考えを深めるため、補助発問で姉や両親、ドナーを待つ患者など様々な立場から考えさせる。 ・自分の生命に真剣に向き合わせるため、臓器提供意思表示カードにどのように自分の意思を示すかを考えさせる。 ・家族からの手紙を読ませ、家族は自分の生命についてどのように考えているのかを知らせる。

(3) 評価の視点

- ・他者との話し合いを通して、「自他の生命の尊重」について多様な考えがあることを知り、そのことを受け止めようとしていたか。
- ・これからの生活において、自他の生命を尊重しようと考えているか。